

選挙公報

会長候補者選挙について

会長候補者選挙の選挙公報を掲載します

立候補者が定数を超えたため、代議員は投票期間内に投票をお願いいたします。

備考:この選挙公報は、候補者から登録された内容をそのまま掲載したものです。

会長

定数	立候補者数
1 名	4 名

選挙期間
投票方法

2025年4月7日(月)正午～4月20日(日)正午

電子投票(インターネット投票)

- ・パソコン、タブレット、スマートフォンから投票可能です
- ・協会ホームページのマイページからアクセス
URL(パソコン、タブレット、スマートフォン共通)

<https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login>

2025年3月31日

公益社団法人 日本理学療法士協会
選挙管理委員会

会長立候補者

定 数： 1名

立候補者数： 4名

備考:この選挙公報は、候補者から登録された内容をそのまま掲載したものです。



氏名 斉藤 秀之

都道府県士会 東京都

年齢 58

勤務先名称 (公社) 日本理学療法士協会

協会・士会役員歴

【協会】会長(2021～)、副会長(2013～2021)、理事(2011～)
【石川県】理事(1995～1997)
【茨城県】理事(2007～2018) ※会長7年、副会長2年を歴任

立候補の趣旨

このたび私は会長候補者選挙に三度目の立候補を表明します。理学療法士の未来を切り拓き、会員の皆様にとってより良い協会を実現するため、これまでの活動とその成果を踏まえ、次の段階へと協会を導くリーダーとしての責任を担うべく、決意を新たにしております。過去4年間の会長経験を通じて理学療法士の職能向上や地域社会における理学療法の価値向上、国際的な交流促進、本会外との関係団体との信頼強化などに努めて参存です。今回の立候補にあたり、ここに私の四つの目標を掲げます。

1. 会長任期の上限設定と後進育成の推進
会長任期を制限し、後進育成を制度的に支える環境を整備することで、次世代の理学療法士リーダーが多様な視点から協会を発展させる体制を築きます。
 2. 法改正の実現と職能強化・拡大
法改正により理学療法士を守りつつ、職能強化・拡大を推進し、専門職としての地位向上と理学療法士が必要かつ多様な場面で主体的に活躍できるよう、政策提言を強化します。
 3. 国際貢献の深化
まずはベトナムにおける日本国政府事業への参画を通じ、日本の理学療法が国際社会に貢献する仕組みを確立します。
 4. 会員にとっての協会の価値向上
会員が協会の活動に直接的な利益を実感できるよう、各種事業に取り組み、生涯学習制度の価値向上や情報発信の強化を進めます。
- 三度目の挑戦となる今回、私はこれまでの経験を踏まえ、皆様の信頼を得て、会員の皆様一人ひとりが輝く未来の実現を目指し、協会を更に成長させるために全力を尽くす所存です。代議員各位の絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。



氏名 高橋 哲也

都道府県士会 東京都

年齢 57

勤務先名称 順天堂大学

協会・士会役員歴

群馬県理学療法士会会長、日本理学療法士協会の国際部部長、学会運営審議会議長、常務理事を歴任。現在、令和8年度診療報酬改定対策強化推進部会会長、公衆衛生等理学療法業務構築・検討部会部会長を務める。理事当選6回

立候補の趣旨

23名の理事が立場を超えて協力し、課題を根本から解決できる協会を目指します。わかりやすいマスタープランに基づく改革が必要です。どうか私に力をお貸しください。

- 1) 新入会率向上と退会防止
新入会率低下を何としても止める。都道府県と協力し、新人会費の免除や若手支援、生涯学習改革、資格更新費用の見直しなど、会員の経済負担を軽減を通じ、離脱を防ぎます。
- 2) 役員報酬・予算執行の透明化
必要事業を厳選し、無駄を徹底削減。役員報酬の適正化と部門会計導入による見える化、最適化を進め、将来的には会費引き下げも視野に入れます。
- 3) 全国学会の復活
日研をリニューアルし、1万人規模の全国学会を再興。理学療法士の力を内外に示すと同時に、世代を超えた人的交流を促進。次世代のキャリア形成を後押しします。
- 4) 診療報酬・介護報酬対策の強化
ビッグデータやガイドライン、レジストリを整備し、エビデンスを武器に国や関連団体へのロビー活動を拡大。理学療法士の雇用・賃金・役割を守ります。
- 5) 次期参院選への取り組みと理学療法士法の改正(10年構想)
法改正、報酬死守のため、連盟や都道府県士会と連携し、次期参院選で組織代表候補を当選させる。公衆衛生や予防・健康増進の重要性を明記し、社会的地位を拡大します。



氏名 森本 榮

都道府県士会 東京都

年齢 69

勤務先名称 初台リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

21年22年協会職能局長 協会理事 23年24年協会事務局長 協会理事
25年26年協会地域包括ケア推進対策本部長
27年28年地域包括ケア対策本部長 協会常任理事
29年30年士会機能強化推進執行委員長兼介護予防推進執行委員会委員長
職能課職域事業係担当、秘書広報課秘書広報係担当、総務・経理課担当
専務理事兼副会長
令和元年2年職能課職域事務係・診療報酬担当、組織体制検討委員会委員長 副会長
令和3年4年業務執行理事学会連合担当 日本理学療法学会連合 監事

立候補の趣旨

私は協会運営（組織マネジメント）の要は信頼関係の構築と継続できる仕組み作りと考えています。現状の協会運営にて失われつつある士会との信頼関係を解消するために立候補します。問題点①現会長の協会運営の自己評価では、広く成果を誇示していますが、受け手の士会は事業過多を感じ上位下達の指示と認識されています。成果は士会が達成してこそ誇れるもので実が伴わない言動は士会と協会の間に「ひずみ」を拡大します。また世代交代の推進を語られますが、世代交代した先に何があるのか？育成の形やリードする姿が見えないことも組織運営を混乱させる原因になります。問題点②協会運営を支える協会事務局を見ると、この2年で歴史を支えた6名が退職し機能低下を招いている。事務局の所管は専務理事であるがそれを総理する会長の責任は大きい。機能低下での稼働は「自転車操業」となり事業個々に対して粘り強く丁寧な対応は不可能です。早急な協会事務局の機能強化が重要です。

具体的対策：現状の事業を実施しつつ事業評価を行い、協会の財務配分を調整し士会運営への支援と協会事務局の強化に資金を投入し改善策を実行します。私も世代交代は賛成です。私であれば実務能力評価を協会理事会で行い、課題提示での自己解決能力向上を促通し育成します。私は上記に掲げた問題点を見て見ぬふりはできず立候補しました。代議員の皆様には協会運営（組織マネジメント）を正しく評価してください。今変革しないと将来に禍根を残します。信頼回復ができるのは私です。よろしくお願いします。



氏名 吉井 智晴

都道府県士会 東京都

年齢 59

勤務先名称 東京医療学院大学

協会・士会役員歴

2009～2012年度 理事 ・2015～2016年度 理事
2017～2020年度 常務理事 ・2021～2024年度 副会長

立候補の趣旨

人は変化の実行を選択するか否かの場面では躊躇して当たり前です。一步進むか止まるか、を決めるのはその先の未来が見えるかどうかではないでしょうか。

私は2021年から副会長を拝命し、この間、現会長には大変ご配慮をいただき職務を全うさせていただきましたが、直近2年間の執行部を担った一人だからこそ、変革が必要だと考え会長に立候補致します。

1) 4・6プランへのチャレンジ：会員の構成比である女性4、男性6を本会役員、委員会、段階的に代議員にも実行します。その為には男女ともに認識の変化が必要で、女性がマイノリティである組織の違和感を共有することから始めます。

2) 情報の透明性の追求：「会員目線」を基準とし、理事会運営における意思決定プロセスの透明性と効率化、また、管理費の適正執行の調査や複数年度実施事業について、資金投入と成果の振り返り、今後の発展性を再検討します。

3) 事務局機能の強化：現状の事務局員の雇用を保障した上で、個々のキャリアアップと同時に、持続可能な組織を作ります。会長の任期制を復活させ、理事者が変わってもブレない強い組織、公平で安心して働ける職場とします。

4) 学会との適正な関係性と報酬改定への戦略強化：学会の独立性を担保しつつ、会員が負担少なく学会活動ができるような関係性の見直しが必要だと考えます。

5) 士会との役割分担：士会の独自性を尊重しつつ、共通課題を迅速に協会と共に解決する伴走型の関係づくりが望ましいと考えます。

私の強みは、利他主義でありチーム戦が得意な点です。新理事会は、これまでの実務能力と立候補趣旨を踏まえて、継承と変革のバランスのとれた体制の構想を頭の中で進めており、例えば、事務局に精通した方、医療・介護の第一線にいる方、外部団体との交渉力のある方等のチーム戦でこの難局を乗り切ることを考えています。